

## 4 少数精鋭体制の構築と水道技術の継承・発展

### (1) 「体験型研修センター」による技術継承と他都市連携

厳しい経営環境に対応して職員数を削減しなければならない状況下でも、業務の質の確保と技術の継承を可能とする少数精鋭型の業務執行体制とする必要があります。

このため、水道技術の各分野の実技研修を実施することができる「体験型研修センター」を整備し、平成 22 年度から運用しています。

このセンターは、全ての施設が実際の施工現場を想定した環境であり、本市職員の研修のみならず、他都市や海外の水道事業を担う人材の研修の場である「広域的な研修拠点」としての活用を引き続き推進します。また、受講者の高い満足度を維持（85%以上）しながら、他事業体等から一定規模以上の年間受講者数を確保（280人以上）していきます。

体験型研修センター施設配置図



#### 【体験型研修センターを活用した局主催研修の実績】

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
局内向け研修	928 人	1,078 人	954 人	1,495 人	1,376 人	1,669 人
他事業体向け研修	63 人	110 人	121 人	186 人	280 人	479 人
合計	991 人	1,188 人	1,075 人	1,681 人	1,656 人	2,148 人

### (2) 少数精鋭体制に対応した人材活用

これまで水道局職員局内転任制度に基づき、技術士補や水道施設管理技士等の公的資格の取得を通じて水道技術に関する一定の知識等を有し選考試験に合格した技能職員を技術職員に任命し、また大阪市職員転任選考制度に基づき、事務適性を有し人事委員会実施の選考試験に合格した技能職員を事務職員に転任させることで、局職員の人材活用に取組んできました。

引き続き、少数精鋭型の体制に対応した人材活用を推進していきます。

#### 【転任者数の実績】

	H23.5	H24.5	H25.5	H26.5	H27.5
技術転任	—	10 人	8 人	44 人	9 人
事務転任	—	—	13 人	15 人	9 人
累積人数	—	10 人	31 人	90 人	108 人

### (3) 「最適先端処理技術実験施設」を活用した技術開発

柴島浄水場内の最適先端処理技術実験施設において、より安全で良質な水づくりをめざして、高度浄水処理の効率化・最適化や新たな浄水処理方式の研究開発に取り組むなど、技術・ノウハウの維持・向上に努めています。

こうした取り組みを通じて水道技術の継承と発展、当局職員の人材育成に努めます。

#### 【主な研究の内容】

##### (高度浄水処理システムの効率化・最適化に関する調査研究)

平成12年3月から市内全域に高度浄水処理水をお送りしていますが、水道水質基準の強化や水源水質の変化にも対応するために、高度浄水処理システムの更なる改善に向けて調査研究を行っています。

- 効率的な凝集剤注入式の全浄水場における運用
- 砂ろ過への複層ろ過の導入
- 浄水処理対応困難物質等の原水汚染状況や排水処理性の確認、測定方法の確立等によるリスク評価

##### (次世代型浄水処理システムに関する調査研究)

将来的な設備更新等を見据えて、膜ろ過処理等の新たな浄水処理技術についても調査研究を行っています。

- 凝集沈でん及び砂ろ過処理における固液分離負荷バランスに関する調査研究
- 膜ろ過（最適先端処理技術実験施設を活用した民間との共同研究）に関する今後の適用手法などの調査研究



施設外観



内部の様子